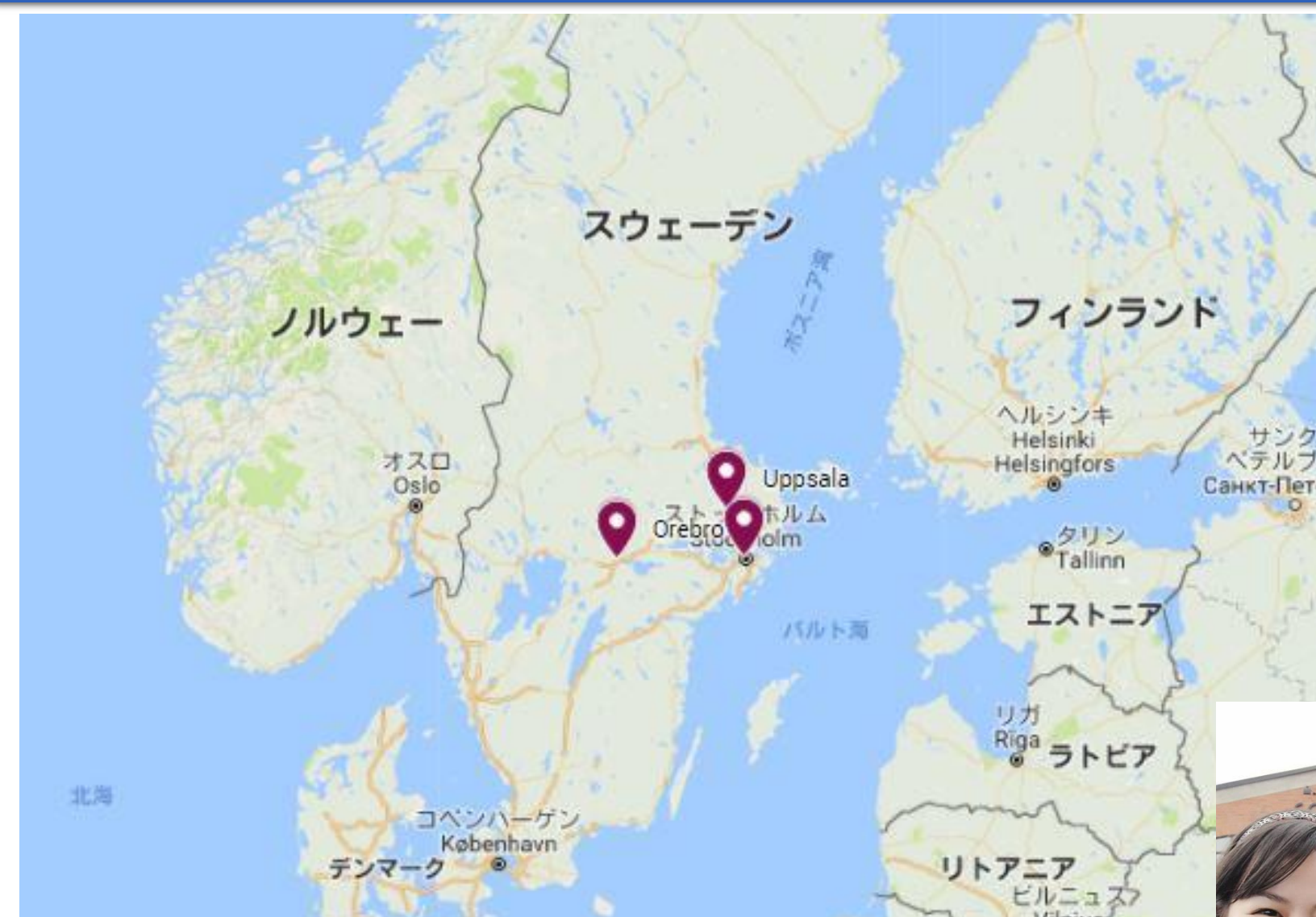




スウェーデンで研究者に学ぶ Karolinska Institutet, Örebro University Hospital, Uppsala February 11~17 2018

藤崎照世、公共健康科学専修、3年

渡航先での活動内容



- 1日目 : the Centre for Health Equity Studies (CHESS)にてProf. Rostilaとのディスカッション、Karolinska Institute見学、Department of Medical Epidemiology and Biostatistics (MEB)のDr. Chenへのインタビュー
- 2日目 : Örebro University HospitalにてDr. Hiyoshiから統計解析 (STATA)を教わる
- 3日目 : Division of Clinical Pharmacology, Karolinska Institutet でのセミナーに参加
- 4日目 : Örebro University HospitalにてDr. HiyoshiからSTATAを教わる、同大学病院の見学
- 5日目 : Uppsala UniversityにてDr. Fallの博士課程学生のHalf-time seminarに参加、大学見学



目的を達成できたか

先生方、現地の方々の温かいご支援のお陰で、スウェーデンの社会医学研究を学ぶこと、統計解析について専門家から教わること、日本とスウェーデンの社会制度の共通点と相違点を感じることにいった目的を達成できた。想定していた以上に日本とスウェーデンとで人々の価値観や暮らし方が異なることを目の当たりにし、刺激的であった。

グローバルな視点とは何か

まず異なる文化、背景、歴史、伝統を積極的に知ろうとし、尊重し、いったん受け入れる姿勢である。その上で自らの価値観や感性と照らし合わせ、互いが相手に見出した魅力から学んだり共通の課題に向けて共闘したりすることで、相互に良い作用を及ぼし合うことである。

将来の進路決定へどう影響したか

平等国家とされるスウェーデンですら教育による格差、性別による格差があることが新鮮であった。格差をなくすことはそれだけ困難なことなのだろうと思うが、だからこそ、どの進路に進むにせよそのような地球規模の課題に対して国際社会と協力して解決することに貢献できればと改めて思った。

目的以外に学んだ点、反省点

スウェーデンを訪れたのは初めてだったが、日本と違うことがあまりにも多く、毎日発見の連続であった。挙げるときりがないが、例えば、女性の喫煙率が男性より高いこと(体感だけでなくデータ上も)、電車が2分に1回のペースでも詰まることなく遅延が日本以上にないこと、お手洗いが大抵男女共用なこと、誰しもが瞬時に英語に切り替えられることなどである。

反省点としては、上記のようにスウェーデン人は英語も流暢なので英語だけで十分に会話はできるが、スウェーデン語も挨拶程度は事前に覚えておいた方が望ましかっただろうと思う。

後輩へのアドバイス

7日間の公共交通機関フリーパスなど、知っていることで大幅に節約ができる便利なものも多いので、行き先の交通情報等について本やインターネットを通じて事前に情報収集しておくことをお勧めする。

研修支援制度に望むこと

海外で興味のある分野について学びを深め、また日本を外から見つめ直すこともできる大変有意義な機会だと実感しているので、もし条件が整えば、今後もこの制度が下の代へと続いていくことを願っています。

